

長崎大学・鹿児島大学・琉球大学 三大学連携事業の成果
—複式学級指導の研究に焦点を当てて—
鹿児島大学 八田明夫

**The Products of a Cooperation with Nagasaki Univ.,
Kagoshima Univ., and Ryukyu Univ.
—Focused on the Study of Combined Class—
Akio Hatta**

1 はじめに

鹿児島・長崎・琉球の三大学の教育学部は、平成 17, 18 年度に「新しい時代の要請に応える離島教育の革新」の課題で連携研究を行った。研究テーマを細分し、子ども理解・平和教育を長崎大学、複式学級を鹿児島大学、e-Learning 遠隔教育を琉球大学がそれぞれ幹事大学を担当し、各テーマに三大学の教員が参加して連携研究を行った。

研究を通して、離島・へき地の教育についての理解や複式学級指導法の理解などを高めるために、各学部が改善すべきこと、取り組むべきことが明らかになった。

複式学級の指導は、大学教育で教育学・心理学・教科教育学など様々な分野の学習をしていれば、できるようになるという「予定調和」論で済むほど簡単なことでなく、複式学級指導に関して直接学んでいなければ、教育現場に入ってから苦勞している実態が明らかとなった。教師がその苦勞をしている間は、児童にとって好ましいことではない。

研究成果として三大学は「複式学級指導法」の授業を構築し開講することを決めた。また、学年の異なる児童・生徒を指導する複式学級の指導方法は、単式学級の習熟度の違う児童・生徒の指導に役立つという学校現場からの報告も明らかにできた。

19, 20 年度もテーマを発展させて、「三大学の連携による離島・僻地校での教科指導力向上のための教育課程の編成 —大学教員と小・中学校教員の相互訪問授業を軸として—」で継続した。この取り組みも離島や山間僻地にある学校の教育が研究され、大学教員も参加した校内授業研修会を通して、現職教員の実践力向上に役立った。また、大学の「複式学級指導法」などの講義では、小・中学校の教員が「ゲストティーチャー」として学生に直接、教育現場での実践の話をする機会も設けた。「複式学級指導法」の講義を受講した学生は、一様に「学生時代にこのような講義を受けることができ本当に良かった、複式学級のある小規模校に行くことが楽しみになった」という感想を提出している。

4 年目の最後の年に、複式学級研究の幹事校として、「複式学級指導法」の本を出版することができた。複式学級指導の研究の幹事校である鹿児島大学のメンバーの一員として 4 年間にわたる複式学級について連携研究のまとめを行う。

2 研究の記録

(1) 平成 17 年度 (2005 年)

2005 年(平成 17 年)4 月：三大学連携事業がスタートしたことが教授会で報告され、研究参加者の募集が始まる。

2005 年(平成 17 年)5 月 16 日(月)：三大学連携プロジェクトの会議。この会議が学部内

の取り組みの最初の会議である。23名のメンバーでスタート。

5月20日：川内地区実習校・27日鹿屋地区実習校への挨拶で、鹿大が複式に取り組むことも説明、協力を依頼した。

6月6日(月)：離島・へき地プロジェクトの会議。平成13年12月発行、大島教育編「離島へき地教育の充実 複式学級における学習指導の進め方」を紹介。

6月8日(水)：名瀬市教委(現奄美市)離島へき地教育の取り組みを説明。午後から芦花部小中学校の授業見学。児童数は1年から6年の順に、5, 1, 2, 8, 6, 2名と各学年にばらつきがある。1, 2年で6名であるため1, 2年も複式学級である完全複式の学校。

6月28日(火)：垂水市教委へ複式授業見学の要請。

7月16日(土)：長崎大学において、三大学が参加して「三大学連携の会議」、終了後情報交換会

10月14日(金)：崎原小学校、複式少人数学習指導法校内研修会参加

11月1日(火)：泰野小学校、複式へ出前授業

11月15日(火)：教授会後、三大学連携の会議

12月6-8日(木)：沖縄 三大学による会議

12月9日(金)：芦花部中学校へ出前授業

2006年(平成18年)2月6日(月)：三大学原稿(多島研の雑誌)締め切り、2月中に編集し3月4日のシンポジウム時に出版した。

3月4日(土)三大学・多島研共催シンポジウム

初年度(17年度)の研究のまとめとして、2006年(平成18年)3月4日には、鹿児島大学に於いて、鹿児島大学多島圏研究センターと共催して、鹿児島大学 多島域フォーラム・シンポジウム 琉球-鹿児島-長崎、三大学連携事業「新しい時代の要請に応える離島教育の革新」を行った。

鹿児島大学 多島域フォーラム・シンポジウム発表題

- 1 離島における教育の実情と課題
- 2 離島及び僻地の小さな学校から始める平和教育
- 3 長崎県における複式教育の実情
- 4 習熟度別指導に役立つ複式授業の研究(予報)
- 5 複式学級における算数科指導の改善に関する研究
- 6 複式学級と単式学級との話し合い場面における比較研究
- 7 沖縄県の公立小学校複式学級における理科授業実践上の問題点とその改善に関わりうる大学の教員養成への提言
- 8 沖縄県離島地域における子どものメンタルヘルスとライフスタイルおよび体力の関連-竹富町の小学生を対象として-
- 9 長崎県五島列島中部島嶼地域の児童・生徒の体格・体力の特徴
- 10 e-Learningを用いた離島・へき地学校教育に関する研究
- 11 ICT活用による離島教育の充実・発展に関するプロジェクト報告(長崎大学)

このシンポジウムには、三大学の教育学部教員、鹿児島県教育委員会、鹿児島県の学校関係者など約80名の参加があった。その成果は、多島圏研究センターの

Occasional Papers No. 45 として出版した。

多島圏研究センターの出版物には、初年度のまとめが次のように述べられている。

三大学連携事業の平成 17 年度の取組

長崎、琉球、鹿児島の三大学の教育学部は平成 17 年度から「新しい時代の要請に応える離島教育の革新」というテーマのもとに連携した研究を行なっている。序文にもあるように日本社会がどこかに置き忘れてきた何かが、へき地や島嶼部の教育で重要な役割を果たしていると考えている。その研究成果を日本の教育界に発信するため、本年度は下記のように取り組んだ。

長崎大学における取り組み

三大学の打ち合わせに従って、学部内でそれぞれの主題に対する研究グループを構築した。主幹は、教育学部の研究推進委員会の委員長が務め、その采配に従って各グループが活動している。

子ども理解のグループ：世話役は、原田先生である。内容的には、心的な部分と身体的な部分に分かれて研究を進めている。後者の身体的な研究のまとめ役は山内先生である。それぞれ、五島をはじめとした離島に出かけ、子ども理解のためのデータを集めている。その分析の一端を今回の報告書に載せることになっている。

複式学級のグループ：世話役は村田先生である。附属小学校の先生方も加えて研究を進めている。特に小学校の研究発表会の際に設けられる複式学級検討会での話題を取り上げ、研究の効率化を目指している。

遠隔教育：世話役は藤木先生である。琉球や鹿児島と情報の交換を行って、相互の授業への活用を検討している。機器はある程度揃ったので来年度に向けた準備を行っている。平和教育：琉球と長崎の交流が進んでおり、相互に訪問している。ここでの検討を踏まえて今回の報告書に記載した方針で研究の展開を図りたい。ただ、鹿児島との連携が十分でないため、来年度向けて調整が必要と考えている。

琉球大学における取り組み

2005 年 1 月 31 日三大学教育学部連携協力に関する協定書が締結された。5 月教授会議として「三大学連携事業」が提案され承認された。6 月教授会で e-Learning（責任大学：琉球大）、複式学級（責任大学：鹿児島大）、子ども理解・平和教育（責任大学：長崎大）の 4 部会への協力者を募集し、各部会代表世話人として米盛・吉田・小林・山口先生を選出した。7 月 16 日には鹿児島大で三大学連絡会議に参加し、各部会及び部会間の情報交換をした。また、12 月には三大学関係者が連携して沖縄県の離島である渡嘉敷村の村教育委員会を表敬訪問、2 つの小学校を視察し情報交換をした。

現在、協力者数は 15 名となり、協力者会議は 5 回を数え、活発な意見交換をし 3 月のシンポジウムへ向け活動を展開している。なお、e-Learning 部会主催の研修会が 2 回実施され学部教員の理解を深めた。次年度の課題として、協力者の拡大と綿密な実施計画が挙げられる。

鹿児島大学の取り組み

3 大学連携プロジェクトの委員を教授会で承認し、更にプロジェクトに参加を希望

する教員を募りメンバーを増やした。主な研究テーマと担当者は以下の通りである。

離島・へき地における授業・学校づくりの充実に関する実際研究(教育学 狩野浩二);大島養護学校と連携した離島の特別支援教育の振興策に関する研究(養護 宮内英光及び養護学校教員);ITを利用した離島・へき地教育の充実に関する研究やテレビ会議システムの運用環境と教師心理に関する研究、離島・へき地における研修の実施、及び「生徒指導」の課題に関わる調査・研究など(教育工学 園屋高志)(心理学 関山 徹)(教育学 河原尚武);複式学級と単式学級との話し合い場面における比較研究(心理学 假屋園昭彦);離島・へき地における複式教育の実践的研究(附小複式 中鉢吉彦+附属小教員);離島における養護教諭の職務(健康教育 徳田修司);離島における複式学級の身体活動量と体力向上に関する研究(保健体育科 丸山敦夫);複式学級における算数・数学、理科、国語、社会科、音楽、図画工作などの授業の改善に関する研究(数学 植村哲郎、佐々祐之)(理科 八田明夫)(国語 上谷順三郎)(社会 溝口和宏)(音楽 畠澤 郎)(彫塑 池川直);平和教育に関する研究(国語 新名主健一)

それぞれのテーマに基づき長崎、琉球大学の類似のテーマの研究者と協力して複式授業を実践している沖縄県の離島の学校を共同で参観したり、三県でアンケート調査を行ったりした。

2006年(平成18年)3月27日(月):三大学連携研究平成17年度まとめの研究会を実施した。初年度の取り組みの反省と2年目へ向けての話し合いを行った。

(2)平成18年度(2006年)

2006年(平成18年)5月18日(木)~5月20日(土):沖縄県渡嘉敷村複式学級視察及び琉球大学にて連絡協議を行った。

6月22日(木)~23日(金):西之表市役所及び安城小学校にて行われた県教育センター複式学級移動講座に参加する。安城小学校の羽生先生の複式授業はベテランらしく素晴らしい複式授業であった。

6月28日(水)~29日(木):名瀬市の大島教育事務局及び笠利町の宇宿小学校にて実施された複式学級移動講座に参加した。宇宿小学校は複式学級指導法の研究授業を多く経験しているので、初めて複式を担当する教員にとって大変参考になる授業を提供された。

10月18日(水)~20日(金):宮城県で行われた第55回全国へき地教育研究大会。

10月24日(火):錦江町大原小学校にて県へき地・小規模校研究大会。

10月31日(火):学部内で三大学連携研究のメンバー会議。

11月10日(金):宮崎にて、教大協の会議前に、三大学連携研究の会議。

11月14日(火):長島町複式小規模校研究会。

11月27日(月)~28日(火):中種子町星原小学校複式授業研究会。理科の学年別授業で、先生方の連携が非常に参考になった。



複式学級の国語の学年別授業風景



複式学級の理科の学年別授業風景

12月14日(木)～15日(金)：三島村三島小学校複式授業研究会に参加。三島小学校教諭が、理科実験を学年別で指導した。鹿児島大学教授が理科の出前授業を行った。

2007年1月30日(火)：学部内で三大学連携研究のメンバー会議。

2007年2月23日、鹿児島・長崎・琉球の三大学の教育学部は、平成17-18年度の特別教育研究経費「新しい時代の要請に応える離島教育の革新」のテーマで連携研究を行い、成果の1年目のまとめとして鹿児島大学教育学部を会場にシンポジウムを行った。

シンポジウムのテーマは、**長崎-鹿児島-琉球、三大学連携「新しい時代の要請に応える離島教育の革新」**。子ども理解、複式学級研究、e-Learning 遠隔教育、平和教育などのテーマで共同研究を行い、それぞれの研究テーマの幹事校を決めて研究を遂行した成果をそれぞれ発表した。複式学級の研究責任大学は鹿児島大学である。

シンポジウムの内容は以下のようなものである。

3大学連携研究 離島・へき地教育シンポジウム —複式授業を中心に—
平成19年2月23日午後1時～5時
於；鹿児島大学教育学部大会議室
講演 北海道教育大学 へき地教育センター長 村田文江教授
報告 宇宿小学校 教諭 橋口俊一先生
片泊小学校 校長 有川隆先生
鹿児島県総合教育センター 恒吉芳友先生
琉球大学 吉田安規良助教授
長崎大学 村田義幸教授
鹿児島大学 八田明夫

センター紀要特別号3号

2007年(平成19年)3月には、17-18年度の研究成果を鹿児島大学教育学部教育実践センター研究紀要特別号 3号として出版した。

2007年3月2日～3日：長崎県五島市緑が丘公民館にて、三大学連携研究フォーラム。五島市長、教育長らの参加を得て200名以上の参加者があった。17年度・18年度のまとめを行った。

3月7～8日：龍郷町立龍瀬小学校、龍瀬中学校にて理科出前授業。

3月30日：長崎大学にて三大学連携協議。新しい課題に向かったの取り組みについて企画・調整。

(3)平成19年度(2007年)

2007年5月30日：琉球大学で開催された平成19年度日本理科教育学会九州支部大会にて、理科複式授業について発表。

2007年6月7日：知覧町立手蓑小学校にて開催された小学校複式学習指導講座に参加。

2007年6月14日：長崎大学教育学部にて開催された3大学連携研究推進委員会出席。教育学部附属小学校の複式学級で授業参観。

2007年6月27日：霧島市立木原小学校にて開催された複式授業研究の移動講座に参加。

2007年7月12日：垂水市立牛根小学校にて開催された複式授業研究会に参加。

2007年7月：知名町立上城小学校にて開催された平成19年度知名町小中学校連絡会授業研究会に参加。

2007年9月6日：長崎大学教育学部にて開催された長崎大・鹿児島大・琉球大3大学連携研究に関する研究打ち合わせに参加。

2007年9月6,7日：伊仙町立阿権小学校及び知名町立上城小学校にて音楽の複式授業研究

2007年9月14日：大島郡大和村立名音小学校にてテレビ会議システムによる遠隔授業の準備・打ち合わせ。

2007年10月：琉球大学にて琉球大学小林稔准教授との共同研究打ち合わせ。

2007年10月16日：三島村硫黄島の三島小学校にて授業参観及び算数複式授業資料収集。

2007年10月18日：奈良県橿原市橿原万葉ホール、奈良県吉野郡野迫川村立野迫川小学校等にて、全国へき地教育全国大会出席、複式授業参観。

2007年10月22日：奄美市住用町奄美市立東城小学校にて社会科複式授業研究

2007年11月5日：屋久町立安房小学校にて「気になる子ども」教育相談。

2007年11月5日：琉球大学教育学部にてITCグループ研究打ち合わせ

2007年11月：千葉県野田市東京理科大学にて開催された日本数学教育学会にて発表。

2007年11月14日：奄美市笠利町、宇宿小学校・緑ヶ丘小学校の複式授業参観及び資料収集。

2007年11月16日：奄美市立東城小学校にて複式社会科研究授業に参加。

2007年11月26日：奄美市立宇宿小学校の公開研究会出席。

2007年11月：喜界町立上嘉鉄小学校の校内研修及び国語授業研究に参加。

2007年12月1日：札幌市にて北海道教育大学主催 へき地教育を担う大学サミット『へき地教育と教師教育』シンポジウムにて招待、講演。

2007年12月：垂水市牛根小学校の算数複式授業参観。

2007年12月：鹿児島市立一倉小学校にてテレビ会議システムを活用した遠隔へき地共同授業・実践研究会。

2007年12月：奄美市立宇宿小学校の複式理科及び社会科授業研究会出席。
2007年12月：与論町立与論小・中学校・茶花小学校にて授業参観。
2008年1月9日：沖縄県宮古島市鉾原中学校行われた琉大吉田准教授の理科授業及び授業研究に参加，教科の指導力向上について研究協議。
2008年2月1日：伊仙町複式学級指導法授業
2008年2月19日：山形県五十川小学校にて理科複式授業見学及び理科出前授業実施。
2008年2月20日：山形県伊佐領小学校にて複式学級の集合学習を見学，研究主任教諭と複式学級指導について研究協議。
2008年2月29日：宮古島にて三大学連携研究フォーラムに参加。
2008年3月30日：長崎大学にて三大学連携協議，最終年度にむけて協議。

(4)平成20年度(2008年)

本年度は三大学の連携による「離島・僻地校での教科指導力向上のための教育課程の編成」の研究最終年度である。

2008年4月15日：三大学連携，複式学級指導法の講義順の確認。
2008年4月17日：木曜日2限目，「複式学級指導法」の授業が始まる。
2008年5月8日：複式学級指導法の授業として附属小学校へ学生を引率。附属小学校の複式学級における授業を見学。
以後，各教科を順に講義，現場の先生に来て戴いて実情や複式授業の重要な点を話して戴く。

2008年6月5日：長崎大学にて三大学連携協議。最終年度として鹿児島での複式学級シンポジウムの企画，三大学で「複式学級指導法」の教科書を作成する。鹿児島大学が幹事校として編集の責任にあたることになる。大学の複式学級を研究している人は準備に入る。また，鹿児島大学が奄美市で「複式学級指導」のシンポジウムを開催することも決定。日程・場所等は鹿児島大学に一任。

2008年6月25日：大島事務局，奄美市教委，小宿小学校へ「複式学級シンポジウム」の開催に当たっての協力依頼。

2008年7月28日：喜界町立早町中学校理科部の生徒に理科出前授業実施。近くの中学校の理科担当教諭も参加して研修。

2008年10月：東京の教科書出版社に目次案を提示して，出版を検討してもらう。

2008年10月8日：奄美市にて「複式シンポジウム開催支援委員会」出席。市教委，現場の先生方10名が委員会を作り，小宿小学校の中村校長先生が委員長となってまとめ役をして下さる。

2008年10月16-17日：全国へき地教育研究大会山梨大会出席。

2008年10月27日：琉球大学にて学部の複式学級指導法の講義に出席して授業研究。

2008年11月：出版の意義は認めるも引き受けてもらえず。採算の問題か。別の出版社を。

2008年(平成20年)11月29日(土)：奄美文化センターにて長崎・鹿児島・琉球 三大学連携事業 複式授業の指導法改善に役立つシンポジウム「複式授業の明日をとともに考える」を実施。

三大学連携事業
複式授業の指導法改善に役立つ
シンポジウム 複式授業の明日をともに考える

開催日時：平成 20 年 11 月 29 日（土）

場所 奄美文化センター（奄美市）

プログラム

1 時半：開会式

1 時 45 分～3 時 30 分：シンポジウム

3 時 30 分～4 時：ポスター発表

4 時～5 時：ワークショップ：

国語分科会：算数分科会：理科分科会

音楽分科会：体育分科会

5 時：閉会

主催 鹿児島大学教育学部

後援 鹿児島県教育委員会・奄美市教育委員会

シンポジウムには 118 名の方が参加があった。

2008 年 12 月 4 日：加治木町立龍門小学校の複式学級へ出前授業実施。

12 月：複式学級指導法の教科書，出版社がきまる。その時のお知らせ。

さて，次の仕事ですが，本の原稿依頼です。連携研究の成果の一つとして，複式学級指導の市販本を作成しようということが，三大学連携研究の運営委員が長崎に集まった時提案されていましたが，複式の幹事大学が鹿大ですので，八田がまとめ役をやっています。

出版社は「東京教学社」に決まりました。

初版 1000 部。150 ページ以内，B5 版。図，表の多い本。

原稿の段階は A4，本文のポイントは 10.5 ポイント。印刷で B5 版に。40 字，35 行。である調。12 月末，入稿なら 3 月末に出版できる。ぎりぎり，1 月 5 日。

三月末出版なら，本年度の予算で各大学，ある程度の買い取りができます。

複式学級担当者が是非手元に置いて参考にしたい本，単式学級の担当者が見てみようかと思えるような本にしたいと思います。こまでの成果をまとめて下さい。今まで執筆された論文を解説的に書き直して下さい。

こうしたお知らせが遅かったにも拘わらず，10 章からなる教科書ができあがった。

2009 年 1 月 26 日：加治木町立永原小学校へ理科出前授業実施。

2009 年 2 月 9 日：喜界町立小野津小学校の複式学級へ理科の出前授業。

2009 年 3 月 6 日：長崎大学にて三大学連携「総まとめの会」

3 出版物

三大学連携研究では，鹿児島大学 多島圏研究センターの Occasional Papers で 1 冊，教育学部教育実践研究紀要 特別号で 3 冊の出版ができた。

以下に，三大学連携研究業績のうち鹿児島大学が出版した文献について紹介します。

(1)鹿児島大学多島圏研究センター Occasional Papers, No. 45 (2006年3月)

新しい時代の要請に応える離島教育の革新 (中山右尚・八田明夫編)

- ・離島における教育の実情と課題……………原田純治・村田義幸・新野智子・福田正弘・平岡賢治・小島道生……………1~6
- ・鹿児島における平和教育……………新名主健一……………7~10
- ・離島及び僻地の小さな学校から始める平和教育……………橋本健夫・山口剛・全炳徳……………11~20
- ・長崎県における複式教育の実情……………村田義幸・橋本健夫・北村右一・平岡賢治・水戸一幸・浦田武……………21~26
- ・沖縄県の公立小学校複式学級における理科授業実践上の問題点とその改善に関わりうる大学の教員養成への提言……………吉田安規良・松田恒一郎……………27~32
- ・習熟度別指導に役立つ複式授業の研究 (予報) ……八田明夫……………33~38
- ・複式学級における算数科指導の改善に関する研究……………佐々裕之・植村哲郎・平岡賢治・湯澤秀文……………39~46
- ・沖縄県離島地域における子どものメンタルヘルスとライフスタイルおよび体力の関連—竹富町の小学生を対象として—……………小林稔・高倉実・小橋川久光・吉葉研司……………47~50
- ・長崎県五島列島中部島嶼地域の児童・生徒の体格・体力の特徴……………田原靖昭・山内正毅・中山雅雄……………51~56
- ・eLearning を用いた離島・へき地学校教育に関する研究……………米盛徳市……………57~64
- ・ICT 活用による離島教育の充実・発展に関するプロジェクト報告……………藤木卓・寺嶋浩介・森田裕介・古賀雅夫・全炳徳・中村千秋・西山敏明・浦田武……………65~68

(2)鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要特別号3号

- ・テレビ会議システムを用いた学校間交流学习の研究 ~鴨池小学校(鹿児島市)一勝連小学校(沖縄県うるま市)の二校間での実践事例~……………園屋高志・米盛徳市・仲間正浩・藤木卓・寺嶋浩介・森田裕介・関山徹……………1~9
- ・テレビ会議システムの教育利用とその普及 —離島を含む僻地における心理的・社会的ニーズ……………関山徹・寺嶋浩介・園屋高志・藤木卓・森田裕介……………9-20
- ・複式学級における国語科授業の改善に関する研究 —文学教材指導法を中心に—……………上谷順三郎……………21-34
- ・小学校複式学級における社会科授業についての一考察 —地域学習内容編成の日米比較を手がかりに—……………溝口和宏……………35-44
- ・テレビ会議システムを利用した算数科複式授業改善のためのへき地間遠隔協同学習の研究……………植村哲郎・吉元宣博……………45-58
- ・複式学級における算数科授業デザインに関する研究 ~合同学習形態による算数科学習指導デザインに関する一考察~ ……佐々裕之・假屋園 昭彦・中鉢 吉彦・加治木徹・亀崎 智明……………59-72
- ・複式学級の理科授業の研究……………八田明夫……………73-82
- ・僻地複式学級における図画工作科の指導……………池川直……………83-86
- ・離島複式学級における児童の体格・体力と体育授業の活動量について—1年間の追跡調

- 査から—……………丸山敦夫・晴永清道・竹下公博……………87-96
・鹿児島県本土僻地および市街地学校における養護教諭の職務……………徳田修司……………97-116
・沖縄の教育実践から見えてくるもの……………狩野浩二……………117-128

(3)鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要特別号 4号

論文

- ・算数学習におけるメタ認知能力の育成に関する研究—複式少人数学級における児童のメタ認知の生起とその作用について—……………吉元宣博・植村哲郎……………1-16
・山形県の算数複式授業に対する取り組みの研究—1—小国町立伊佐領小学校の取り組み—……………安井 孜・平田律子……………17-36
・離島・僻地における音楽教育の研究……………日吉 武……………47-58
・小規模校における音楽授業の方法……………畠澤 郎……………59-62
・複式社会科授業の研究—「学年別指導案」による二つの授業実践例—……………伊藤 正……………63-74
・複式学級と単式学級における児童の運動意欲の比較検討……………藤田勉・小林稔……………75-78
・離島の小学校における地域の自然と文化を生かした道徳教育の取り組み……………小柳正司……………79-86

報告

- ・複式学級における国語科授業の改善に関する研究—説明的文章教材の指導法を中心に—……………上谷順三郎……………
・離島僻地の発達障害児に対する巡回指導・支援に関する研究……………
……………内田芳夫・片岡美華・有田謙二・中島晃兒……………87-96
・教科指導力向上のための ICT 活用の研究—遠隔共同学習と教員研修ワークショップの実践—……………園屋高志・植村哲郎・米盛徳市・仲間正浩・藤木 卓・寺嶋浩介・織田芳人・藤本 登……………97-102
・複式学級における学年別指導や同単元同内容指導の授業の在り方
—県外附属小学校やへき地校での複式授業を視察して—……………徳永伸一・田中雄志・永田孝哉・徳留健成・枝迫大明・宮崎幸樹・中鉢吉彦・加治木徹・古河賢一郎……………103-106
・へき地教育を担う大学サミット『へき地教育と教師教育』出席報告……………八田明夫……………107-110
・鹿児島県における複式学級増加の予測……………八田明夫……………111-113

(4)鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要特別号 5号が本号である。